

ベイタウンを団地にしたい企業庁と、教育にお金をかける気がない千葉市教育委員会！

去る8/24日、ベイタウン・コア ホールで「中学校問題と土地利用に関する住民説明会」が開かれた。前回説明会(6/15)で住民側から出された疑問点に企業庁と千葉市教育委員会が答える形で開催された説明会だ。これまでの経緯はベイタウンニュース前月号などを見ていただくとして、今回はこの説明会の内容をお伝えする。

【金】



熱心に企業庁と市教委の説明を聞く住民(写真左)。ホールに入りきれない住民は入り口に設置されたモニターを見ながら説明を聞くことになった(写真右)。



住民側の参加は約350名。定員200人のコア・ホールでは全員を収容できず、入場できない参加者の為にロビーにモニターを設置するほど熱気あふれる会合となった。

■ 企業庁の説明

- 中学校建設予定地(H7街区)の計画変更に関しては、ベイタウン住民に対する説明不足が不信を招いた点を反省している。
- H7街区問題を事務的に進めてきてしまった点を反省し、今後は住民の合意を図りながら適切な説明と情報公開を行ってきたい。
- H7街区をマンション用地としているが、高齢者に配慮した施設も用意した。
- 500戸の規模であってもベイタウンの中層街区の専有面積の基準に見合っているので過密感はない。
- 現状H7街区計画の白紙撤回は非常に難しい。

■ 千葉市教育委員会の説明

- 「ベイタウンに中学校は2校設置しない」との判断はH14年度のデータを基にH15年に決定している(生徒数の実績と推計値が基準)。
- 千葉市は学校規模の適正化と配置を昨年10月から推進中である。
- 打瀬地区の場合、今後の住民増加予想から生徒数を推計したところ、千葉市の中学校設置基準である「31学級以上の状態がしばらく持続する」ことが見込めないため、打瀬中学校の増築で対応することとした。
- 2校目が必要と判断された場合、学校用地が確保できれば建設は可能である。
- ベイタウンに2番目の中学校が必要か否

かについては「時間をかけてじっくり」検討したい。

■ 住民側の出した新たな疑問点

- そもそも住民へのまともな説明もなく中学校建設予定地(H7街区)を計画変更したことはおかしい。
- H7街区には高齢者に配慮した施設を用意したと言っているが、高齢者対応住宅は500戸中50戸のみである。何が高齢者対応なのか？
- 教育委員会の説明では、今後の状況を見ながら中学校問題を検討していきたいと言っているが、打瀬中学校の現状は今すぐ対応が必要ではないか。
- 大学のように授業ごとに生徒が移動する「教科センター方式」は小規模、少人数で初めて可能な方式であるとの報告もある。打瀬中学校の大規模化は当初目指した教育方針に反するのではないか？
- 小学生の3割が私立中学に進学するベイタウンの現状を基礎に打瀬中学の入学者数を推計しているのは、公教育を預かる行政としては考え方の基準がおかしくないか？
- 31学級にぎりぎり満たないという推計値は数字への恣意性が感じられ信頼できない。
- 打瀬中学校の環境悪化が増幅するようでは私立への受験希望者が増え、たしかに教育委員会の推計値を超えないだろう。
- 住民あつての行政ではないのか？

■ 今回の説明会で約束されたこと

- 今後ベイタウンの問題に関しては綿密な住民広報を行っていく。
- H7街区の事業者は決定しているが、企業庁と事業者間の正式な契約はまだ交わ

されていない。

- H7街区の事業計画は住民との合意がなされなければ推進しない。契約もしない。
- 住民側からの要望による再説明会を行う。

企業庁は事務的にH7街区の用途変更を行って早めの着工を目指したが、思わぬ住民の反発にあって戸惑っているようだ。現時点で計画を変更することは事業者との兼ね合いもあり非常に厳しい。しかしH7街区を学校用地として千葉市に譲渡するとお金にならない。こんなジレンマが発言から感じられた。

また千葉市と教育委員会にすれば、財政危機のときにほとんど開発が終わり今後大幅な人口増加が見込めない地域にお金をかけたくない。住民には都合の良い数字を示し時間をかけて検討していれば時間が解決してくれるだろう。打瀬中学校は増築を重ね生徒数増加に対応していく予定しかないので、現状に不満な住民は私学に行ってくれば生徒数が減ることになりむしろありがたい。

説明会に参加し、住民と行政のやりとりを聞いていると企業庁と教育委員会のいつわらざる本音はこんなところではないかという考えたくなる。

第二中学校の建設を求め「ベイタウンの中学校問題と土地利用を考える会」がはじめた署名運動には1週間で1,700名もの署名が寄せられた(8/24現在)。署名運動はまだつづけられておりこの数字は今後も増え続けるだろう。

しかし1700という数字をたとえ1700戸に置き換えても、現在8,200戸に達しているベイタウン総戸数の20%であり、まだ住民全体を巻き込んだ問題になっているとは言えない。私たちあらゆる世代の大人がもっと声を大にして主張しなければ状態は悪化し、やがて他の問題でも同じようなことが起こるだろう。行政を動かすにはもっともっと大きな住民の力が必要だ。

ベイタウンニュースもこの問題に最後までとことんつきあっていく。

9/19(金) 午前10:00 打瀬中学校を見に行こう

打瀬中学校見学会

日時：平成20年9月19日 午前10:00～
場所：打瀬中学校正門前集合

中学生の保護者でなくても参加できます

考える会では打瀬中学校の現状を知るため、学校の協力を得て「打瀬中学校見学会」を行います。数字よりもまず実際に自分の目で中学校の施設や子どもたちの校内生活を見て考えましょう。

打瀬中アラカルト (7) ～吹奏楽部編～

ワルシャワのフィルハーモニー Narodowa で、5年に一度行われるショパン・コンクールの繊細なピアノの調べに身を委ねるのもいい。暮れに行われる新宿・普門館の5000人の第九に圧倒されるのもいい。でも、毎年夏の「肌に触れる空気が痛い」そんなただならぬ緊張感漂う「千葉県吹奏楽コンクール」が好きだ。

蝉の喧噪乱れ響く千葉県文化会館において、エントリーナンバー30番、打瀬中44名の吹奏楽部員がステージ上に立った。演奏曲は「アイガー 頂上への挑戦」(Eiger ～ A Joumey to the Summit) スウェ



アリンジェン(1947～)の作曲である。

コンダクターの佐藤洋幸先生のタクトが頭上に上がり、一時停止。不気味なほどの静寂の次の瞬間、物語は一気に始まった。まるで「全員で団結してアイガー北壁1800mに立ち向かう」ような(参考文献;ハロルド作石「BECK23巻」講談社)。やがて本庄千穂のフルート・ソロが入る。この瞬間、ステージ袖で見守っていた顧問の和田先生の瞳が潤んだ。松井苑子の軽快なタンバリンの後、トランペット+ホルンと木管の掛け合いが絶妙に続き、江口佳菜子の第2フルート・ソロが始まった。観客席で聴いていた顧問の穂積先生は遙か遠くにアルプスの青空が見えたような気がした。171小節目、部長・福田紗耶の流れるようなホルンが響いたとき、目指すべきアイガーの頂上が見えてきた。いよいよクライマックスが近づいた。みんなで刻んでみんなで上り詰めてきたアイガー北壁。堂々たる力強い音のハーモニーが一つの強い意志となり、最後のタクトに呼応した。ブラボー！大拍手。よくぞここまで作り上げた。スポーツ系部活以上の猛烈な汗をかきながら。熱中症になりかけながら。練習後の酸化した汗で「自分が酸っぱい」と嘆きながら。

学校の放課後シーンを文化的に演出しているのは、クラリネットやフルートの独り練習から奏でる音色。しかし、同時にこの「音」が近隣の皆さんにご迷惑をかけています。できる限り海側で音出ししたり、音楽室では窓を閉め切って「音」の遮断に気を遣っています。が、夏などは室温38度を超えサウナ化状態です。努力しますので、何卒ご理解ください。

富士登山記 (ベイトウン社体投稿)

「一生に一度でよいから富士山に登りたい」何人もの方々からこんな声を聞いていた。社体で富士登山を企画してみようと考えた私は、事務局長の犬井さんに相談した。「俺も登ってみたい」とのご返事。

7/27(日)打瀬ベイトウン社体の富士登山隊(20歳代より73歳まで総勢21名)は、午前8時打瀬中学校横より大型バスにて出発した。中央道にて河口湖へ、いよいよ富士スバルラインに入る。5合目駐車場に予定の12時一寸前に着いた。相変わらずのすごい人出である。各自昼食とトイレを済ませ、軽い準備体操後いよいよ登山開始。

6合目、7合目と歩いてきたが、後方より1人調子が悪いと連絡があり、私のすぐ後ろを歩いてもらうが10分程でうずくまった。荷物を預かり、空身で歩いてもらうが一寸歩くとまた立ち止まる。「足はなんとも無いが息が苦しい、休んで酸素を吸うと直る」との事。軽い高山病だ。私は元体育の先生であった小畑さんや犬井さんに依頼し、他の人たちと先に行くことにした。

18時過ぎ、8合目の白雲荘に着いた。寝る場所を確認し、私は迎えに行くと外へ出る。迎えに歩き出したところへ、波木さんと呼ぶ声、見ると小畑さんである。「登山者で混雑しているのが幸い、ゆっくり来たので、無事着きました」。暗くならぬうちに到着しひと安心。全員そろったところで夕食。「明朝は3時起床、身支度が出来次第出発し、ご来光の前に戸外で朝食を取ります」。

7/28日午前3:00起床、3:30分白雲荘を出る。昨日、体調不調のIさんより「登頂をあきらめ小屋で待機しています」と申し出があり、残念だがそうして頂いた。次第に明る

さを増してきた東の空が赤く染まりはじめ、足元の山中湖が銀色に輝き、やがて真っ赤な太陽が昇ってきた、荘厳な一瞬。4:55分、頂上目指して一步一步進む。9合目まで来た、此処からがきつい登りだ。ジグザグに作られた登山道を喘ぎ喘ぎ登る。

7:20分ついに頂上に。手袋をはずして一人一人と握手。ご苦労様でした…。皆感激の間だ。富士山頂奥宮神社前で記念写真。噴火口に案内し写真を撮る。下りは速い、振り返ると頂上は遙か上である。

急に雲の中となり視界5mほどか、皆を分岐点で待たせ、Iさんを迎えに白雲荘へ。6時間ぶりに再会し、下山開始。イヤになるほどの長いくだりだ。晴れていたかと思うと急に霧が立ち込め、雨が風と共に横から降ってきて、すぐ止む。

ようやく6合目、この辺りより緑が見え始める。5合目バス停へ足を引きずるようにして無事到着。バスに乗り、山中湖近くの「紅富士の湯」にて汗を流す、浴室の窓には大きな赤い富士山が雲ひとつ無く聳え立っている。ビールで乾杯、笑顔が嬉しそうだ。

【ベイトウン社体 波木】



自治会連合会が『200年住まい・まちづくり担い手事業』公募に当選

幕張ベイトウン自治会連合会(以後、自治会連合会)が、ベイトウン住民協議会(仮称)準備会(以後、準備会)の活動資金確保のためエントリーしていた『200年住まい・まちづくり担い手事業』の対象団体として、約3倍の競争率の中から、61団体の対象団体のひとつとして選定された。この事業は、国土交通省の補助を受け、財団法人住宅生産振興財団と財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団により共同で設立されたもので、「住宅の建設や維持管理、流通、またまちづくりなどについてモデル的な活動を行うNPOや市民団体、まちづくり協議会などの団体を支援する(ハウジングアンドコミュニティ財団ホームページより)」という主旨により企画・運営されている。本来なら準備会としてエントリーすべきであったが、選考要件には活動実績が前提とされていたことから、自治会連合会としてエントリーしていた。

運営元の両財団とも、国土交通省の天下り先団体という匂いもし、また、国のばらまき行政の中の一事業に加担する可能性もあるが、自治会連合会および準備会としては、少なくとも事業の主旨に沿った活動をしており、実際に活動資金も必要としているため、この当選は喜ばしいこととして受け止めたい。

なお、具体的な援助金額は確定しておらず、募集要項では100万円～300万円が目安とされているが、自治会連合会としては上限とされている500万円まで応募している。この援助が実現した場合、他地域の先進事例調査(外部コンサルタントへ委託)、住民シンポジウムの開催、資料・書籍等の入手、広報(住民向けニュースの作成・配布)などに使われる。

【板東】

今年更にパワーアップ 6年生ラジオ体操リーダー

坂巻君は少し不満だった。ラジオ体操リーダーになってみんなの前で体操をしながら校庭を見ていると、みんなきちんとラジオ体操をしていないように見える。隣の人の間をきちんと取らず腕がぶつかり合うようなところでやっている人がある。よく見るとおしゃべりばかりして体操をしていない人もいよう。僕たちリーダーはきちんと練習して、毎日早起きして一生懸命やっているのに・・・。「意見があります」。思い切って体操会をやっている鎌田さんに提案することにした。

鎌田さんは少し驚きながらも嬉しかった。小学生のリーダーから提案が出てくるのは初めてだ。昨年まではリーダーに体操を教えることで手一杯だった。今年から彼らに自主性をもってもらおうとラジオの管理など体操会の管理の一部をリーダーたちに手伝ってもらうようにした。こんなに早く成果が出てくるとは・・・。早速リーダーを集めて話し合い、何人かが会場の中に入って注意しながら体操をすることにした。

ベイタウンのラジオ体操会に小学生リーダーが登場したのは2年前。最初はみんなの前で体操をしてもらおう6年生を募集したのが始まりだった。3つの小学校にお願いし、各校から5人程度6年生を立候補で出してもらうことにした。今年は16人のリーダーが集まった。前に出て体操をするにはラジオ体操第一と第二を覚えていることはもちろん、普段とちがって左右反対の動きをするなど少し練習が必要だ。夏休みの始まる3週間ほど前から土曜日ごとに早朝集まり、海浜打瀬小ピロティで練習を積んで来た。鎌田さんからはラジオ体操の音楽とナレーションを録音したテープを貸してもらい、家でも練習した。

夏休みになりラジオ体操会が始まるとリーダーたちは毎朝6:15に会場に集合する。その日の出欠を確認し、大型のラジオ2台を預かってもらっている学校の倉庫から運び出し、電源をつなぎセットする。大切なのはラジオのボリュームだ。小さくては会場全体に

は聞こえない。大きすぎると周囲の家には邪魔になる。会場のあちこちに立って音を聞きながら手で合図を慎重に音量を調節する。

体操開始は6:30。順番でリーダーの中心とりが朝礼台に上りみんなの前で体操する。他のリーダーは横一列に並んで同じく体操する。15人が揃った動きをするのは見ていても見事だが、鎌田さんからはひとりひとりに細かい指導がある。リズムに合わせること、肘や指をきちんと伸ばすこと。普段なんとなく覚えていてクセになっている動きだが、注意されるとなるほどラジオ体操の奥の深さを感じる。

体操が終わるとすぐに後かたづけとハンコ押しが待っている。皆で手分けしてスタンプ式のハンコを持ち、並んでいる参加者のカードに押ししていく。小さい子どもたちはハンコを押してもらおうのが楽しみだ。ハンコをもらって嬉しそうに帰るのを見ているとなんだか自分が偉くなったような気分になる。一方ラジオ担当は2台のラジオのコードを巻き取り（これが意外に一苦勞する）箱に入れる。すべて終わったところで最後にミーティングをして、用具を学校の倉庫に収納して終わら

だ。意外なことだがラジオ体操会は学校とは無関係の活動だ。ベイタウンのラジオ体操会は鎌田さんお一人に支えられて14年間つづいてきた。しかし規模も大きくなり、いつまでも一人で支えていくのは難しい。6年生リーダーたちの登場は鎌田さんには大きな助けになったようだ。「来年はもっと早くリーダーを募集して準備すれば、リーダーさんが中心になってラジオ体操会が運営できるかな」。ラジオ体操を終えて帰り道、ふと鎌田さんはつぶやいた。

【松村】



朝礼台の上で模範体操をするリーダー。毎日交代で朝礼台に立つ（写真左）。ハンコをもらうため並んでリーダーが来るのを待つ下級生たち（写真右 写真はいずれも7/26日美浜打瀬小にて）。



9月のコア・イベント

9/20
(土)

わくわくおはなし会 9月の常設おはなし会
時間：10：30～
場所：ベイタウン・コア 講習室（途中入場もできます）

年齢制限なし。予約は必要ありません、みんなで来てね。
今月も、楽しい絵本やゲームを用意しています。
おとうさん、おかあさんも、ぜひ一緒にどうぞ。

9/25
(木)

「親のしゃべり場」
時間：10：00～12:00（開場15分前）
場所：ベイタウン・コア 講習室
主催：青少年育成委員会

今回は打瀬中スクールカウンセラーの安河内先生にお話をいただきます。どなたでもご参加できます。是非、お越しください。

9/27
(土)

寺子屋工作ランド
「竹笛」(たけぶえ)
時間：9:30～
場所：ベイタウン・コア 工芸室
持ってくるもの：小刀、工作道具
参加費：50円（保険料）

9/28
(日)

第66回ファツィオリの会
時間：9:30～11:30
場所：ベイタウン・コア 音楽ホール

フルコンサートピアノ『ファツィオリ』を街の皆様へ弾いていただけます。その他の楽器演奏・声楽・合唱などでもご利用いただけます。いっぱいになり次第締め切らせていただきますので、どうぞお早めにお申し込み下さい。最新のプログラム内容は <http://www.baytown.ne.jp/core/> にてお知らせします
申し込み締め切り：9月21日（日）
連絡先：E-mail：kaorutom@u01.gate01.com（富田）

今年も恒例の「夏休み写生コンテスト」（ホテル ザ・マンハッタン共催）が終了しました。今年は一般の部も設け、お子様以外の方からも沢山の作品を応募いただきました。

受賞作品を下のように選びました。受賞者のみなさんには直接ご連絡し、賞品をおとどけます。

受賞作品はベイタウン・コア廊下掲示板でも今月展示します。是非ご覧下さい。

マンハッタン賞

一般の部：酒井治盛 様

「わが街のホテル ザ・マンハッタン」

小学生以下の部：小野圭介 様

「マンハッタン号 宇宙へGO!」



「マンハッタン号 宇宙へGO!」